

輝いて明日へ

2026. 7. 24

誰にも優しい
地域社会をつくります社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会
理事長 田部井 眞

長い人生を見据えて、私たちが子どもたちに育みたい根幹の力

みなさん、こんにちは。私たちは、子どもたちが高等部を卒業した後の大切な受け皿、そして新しい生活の場となる福祉事業所を複数運営しております。学校に通う期間よりも、卒業した後の人生のほうが遥かに長いものです。私たちは、その長い人生を丸ごと引き受け、ともに過ごしていく覚悟と責任を持っています。

だからこそ、振り返って「幼少期から学齢期」という時期がいかに大切かを痛感します。この時期は、心体が大きく育つだけでなく、集団生活を通して「社会性」という一生モノの力を獲得するために極めて重要です。幸いなことに、現代は卒業後の進路が多様化しました。企業への就職を目指す道もあれば、私たちのような福祉事業所を利用する道もあり、選択肢は広がっています。

ここで、少し「一般就労」について考えてみましょう。
現在は、働くための能力を適切に見極め、マッチングを行う「一般就労支援プログラム」という優れた仕組みがあります。しかし、この評価項目を細かく見ていくと、実は「通勤ができるかどうか」という項目は入っていません。なぜかお分かりでしょうか。

そうです。一般企業で働くということは、そもそも「通勤に課題がないこと」がスタートラインであり、前提条件だからです。ただ、これが「自宅から歩いて行ける距離の職場」であれば、通勤の壁をクリアして就職につながるケースがあることも、容易に想像がつかますよね。条件や環境次第で、可能性はいくらでも変わるのです。

では、企業就労ではなく、私たちの福祉事業所を利用される場合に、必要とされる「力」とは何でしょうか。日常の身だしなみ、元気な挨拶、排せつの自立など、挙げればキリがありませんし、どれも大切な生活能力です。ですが、あえて、今この場で「最も必要な力を一つだけ」絞り込んでお伝えするならば、私たちは何よりも「安定」だとお答えします。

具体的な例を挙げましょう。ある日、通所するときに忘れ物をしてしまったとします。その忘れ物に強くこだわってしまい、心が激しく不安定になってしまうのであれば、もちろん忘れ物は防いだ方がいいでしょう。しかし、本質はそこではありません。本当に必要な力とは、忘れ物をしない完璧さではなく、「忘れ物をしたとしても、慌てず、崩れず、いつも通り『安定』して過ごせる強さ」なのです。

福祉事業所という集団の中で、時には周囲の仲間と行動を合わせる。決められたスケジュールの中で、食事や休憩をとる。そうした日々の営みを、波を立てずに「安定」して送り続けられること。これこそが、ご本人のこれからの人生を穏やかで、豊かなものにする最大の鍵です。

基礎となる「安定」があるからこそ、その上に新しいスキルや、たくさんの「できること」を積み上げていくことができます。焦る必要はありません。まずはしっかりと土台を一緒に作り、さらに豊かな人生へと繋げていきましょう。

座談会「ボワ・すみれ福祉社会が求める管理者像」を語る

「これまでの議論を振り返り、これからの管理者の在り方を考える」

◆はじめに

2025年4月から2026年7月まで、私たち法人管理者は毎月テーマを設定し、管理者としての在り方や職員との向き合い方について議論を重ねてきました。

「職員を大切にする会社」「心理的安全性」

「優しさと厳しさ」「次世代育成」など、

多角的なテーマを通して、管理者としての姿勢を深く見つめ直す機会となりました。

今回の座談会では、これまでの議論を振り返りつつ、①印象に残ったこと、②管理者として今後どのような姿勢で取り組んでいくかを一人ひとりが語り合い、

「ボワ・すみれ福祉社会が求める管理者像」の輪郭を改めて共有しました。



◆座談会の様子

● 島山（花の家施設長）

「毎回の議論で、自分にはない視点に触れたことが大きな学びでした。特に私は、共感性が強く、要望性が弱い」という課題を自覚しました。優しさが行き過ぎると、ぬるま湯組織“になりかねないことに気づけたのは大きかったです。今後は自身の課題改善を意識しながら、最終的には法人が求める管理者像に近づくよう努力していきたいと思います。」

● 齋藤（花の家副施設長）

「特に一つだけ印象に残ったというより、毎回その時々で学びがありました。他の管理者の考えを聞ける場はとても貴重です。今後は、職員一人ひとりの性格を見極め、話しかけやすい雰囲気をつくり、信頼関係を深めていきたいと考えています。」

● 津田（ボワ・アルモニー施設長）

「部署ごとにご利用者像も環境も違う。だからこそ、見えていない側面を知る場でした。私は管理者の役割を次のように整理しました。『法人理念を現場につなぐ役割』、『現場を理解し、導く役割』管理者は、会社の考えと現場の仕事をつなぐ橋渡し役であり、職員に伝えるべき「向かうべき方向」を目的↓方向性↓行動の3段階で示すことが重要です。」

● 星野（クッカ広場施設長）

「毎回学びはあるものの、特に一つというより全体を通して、自分は管理者としてまだまだできていない」と痛感しました。そこを改善していきたいです。」

● 角井（児童支援部副部長）

「管理者が思う、良い状態」と職員が望む、良い状態は一致しないことがある。この気づきが強く印象に残りました。これまで自分の価値観だけで判断しがちだった。だからこそ、相手が何を考えているかを意識して伝えることが大切だと感じました。そして、どのテーマを話しても最終的には信頼関係に行き着くのだと思いました。」

● 清水（居住支援部副施設長）

「管理者としての在り方、一般職との接し方について考えさせられました。」

丁寧に接することで安心感を提供できるという点を、これから大切にしていきたいです。」

● 岡村（居住支援部副施設長）

「同じ方向を向いているはずなのに、管理者によって現場に求めるものが違うと感じたことが印象的でした。今後は、知らない言葉や概念を調べて理解し、職員に正しく伝えていきたいと思います。」

● 稲田（居住支援部施設長）

「“優しい”と、職員を大切にする“は違う”という議論が印象に残っています。管理者としての役割を改めて考える機会になりました。」

● 山本（居住支援部施設長）

「他の管理者の話を書くことでとても勉強になっています。今後は『求める管理者像』を定期的に読み返し、手本になれるよう意識していきたいです。」

● 山之内（花の郷施設長）

「管理者同士で話を聞けることで、自分も踏ん張れるようになっていきます。皆のエピソードを振り返り、自分の言動に活かしていきたいです。」

● 成澤（法人本部統括部長）

「考えを共有できたことが良かったですし、管理者が日々頑張っていることを改めて感じました。私は職員には自発的に業務を行うよう伝えていきます。今後は『求める管理者像』に照らし合わせて、理事長に評価していただきたいと思います。」

● 田部井理事長

「各管理者の話から共通して見えてきた3つの姿勢があると思いました。」

① 職員を理解し、信頼関係を築く

多くの管理者が「信頼関係」という言葉を口にしました。職員の性格や特性を理解し、話しかけやすい雰囲気をつくること。丁寧に接し、安心感を提供すること。これらは、どの部署でも共通して求められる姿勢です。

② 法人理念と現場をつなぐ

津田施設長の言葉にもあったように、管理者は“橋渡し役”。理念を現場に落とし込み、職員が「明日から何をすればいいか」を理解できるようにする。抽象と具体を行き来しながら伝える力が求められます。

③ 自分の弱点を認め、改善し続ける

畠山施設長が語った「厳しさの不足」、星野施設長の「できていなかった部分」、角井園長の「価値観の偏り」。それぞれが自分の課題を率直に語り、改善しようとしている姿勢が印象的でした。

管理者が丁寧に職員と向き合うことは、利用者の利益につながります。管理者としての基本に立ち返りながら、これからも共に進んでいきましょう。」

◆ 座談会を終えて

今回の振り返りを通して、管理者一人ひとりが異なる個性や課題を抱えながらも、「職員と丁寧に向き合い、信頼関係を築き、利用者の利益につなげる」という共通の方向性が浮かび上がりました。

また、管理者同士が率直に語り合うことで、互いの弱点や強みを知り、学び合う文化が育っていることも改めて確認できました。

今後も、法人が求める管理者像を共有し続けることで、「管理者が同じ方向を向いている」という職員からの信頼感をより強固なものにしていきたいと考えています。

6月の動向から見える「暮らしの選択肢の広がり」と花の家の役割

近年、花の家では、ご本人やご家庭の事情により、住まいの場をグループホーム（GH）や入所施設、有料老人ホームなどへ移される方が少しずつ増えてきています。特に6月はその傾向が顕著で、お一人は他市のグループホームへ入所、もうお一人は市内に新設された有料老人ホームへ転居され、さらに別の方は他市のグループホームと通所先を探している段階にあります。

一方で、町田市へ転入された方や、先に挙げた有料老人ホームへ他市から移られた後、日中は花の家に通われることになった方の2名が新たに花の家の仲間として加わりました。

かつては、特別支援学校を卒業した後、多くの方が自宅から通所施設へ通い続け、長い方では数十年にわたり同じ環境で支援を受けることが一般的で、ライフステージの変化を通して、通所施設が継続的に支援する安定した流れがありました。

しかし近年は、その状況が大きく変わりつつあります。住まいの選択肢が増え、暮らし方が多様化したことで、利用者の皆さんやご家族が「自分らしい生活」を選びやすくなってきました。これは、従来の選択肢の少なさを考えれば、ポジティブな変化とも言えます。

同時に、通所施設としては、利用者の生活環境の変化に合わせて柔軟に対応することが求められるようになってきました。住まいが変わっても、日中の活動の場として花の家を選んでいただけるよう、支援の質や連携のあり方を常に見直し続ける必要があります。

（畠山 史郎）

モ

就労継続支援B型 クッカ広場

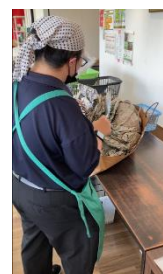
リサイクルショップ リニューアルオープン！

暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
クッカ広場では6月より花の家で育成されたしょうぶの販売、
月末にはリサイクル品全品 50%OFF セールを行い、7月6日からはお店をリニューアルオープンしました！

クッカ広場一丸となり、店内改装や商品の入れ替えを行い、たくさんのお客様にご来店いただいています！毎週水曜日のポイント2倍デーに加え、不定期に様々なお楽しみ企画も開催していますので、近くにお越しの際は是非お立ち寄りください！



店舗改装風景



Instagram始めました！

Instagram（Instagram）にてクッカ広場の公式アカウントを作成いたしました。
クッカ広場の紹介、日々の作業風景、店舗のお得な情報の発信や、Instagramフォロー限定のサービスチケットの配布なども企画していきたいと思っております！

クッカ広場のちょっとした日常が気になる方も、リサイクルショップユーザーの方も、フォローをしていただけると嬉しいです！

（藤見 俊輔）

スマートフォンのカメラで
読み込みを！





花の郷の七夕

短冊に願い事を書いて飾りました

B グループ



2 階ホール



玄関



1 階ホール



七夕給食

初期食



中期食



常食



いただきます♪

テラス販売

たくさん売れました



職員紹介

名前：市田 理沙

自己紹介：大学で福祉を専攻した後、前職では全く異なる分野の仕事を経験し、この度ご縁があって花の郷の支援者としてスタートすることになりました。趣味は体を動かすことやスポーツ観戦です！これからどうぞよろしくお願いいたします。

花の郷の印象：とにかくアットホームで温かい雰囲気だと伝わってきました。印象的だったのは利用者様だけでなく、支援員の皆様にも笑顔があふれていたことです。お互いが心地よい環境で、毎日を過ごされている様子が魅力的だと感じました。

意気込み：これまでの経験も活かしながら、ご利用者様お一人おひとりの毎日に寄り添い、笑顔あふれる環境と一緒に作っていきたいです。





アルモニーのランチタイムのご紹介

毎年6月は「食育月間」

6/22(月)から6/26(金)「^{ふるさと}みんなの故郷めぐり」
というテーマで食育を行いました。いろいろな地域の中から、食べてみたい郷土料理の写真にお名前シールを貼って投票していただきました。自分が選んだメニューが食べられるのをワクワクされている様子が見られました。



地域によって地形や気候も変わり、それぞれ魅力的な特産品や文化、歴史があります。楽しくおいしく学べるように、選ばれた5つの地方の郷土料理や由来、名所や行き方などをスライドや動画を見ながらお伝えしました！食事のマナーを守って静かに聞いてくれてありがとうございました。日本の良いところがたくさん見つけられましたね。食べることにとても興味のあるご利用者が多いので、「今日は何県のお料理ですね！」「明日も楽しみにしています♡」などご利用者の会話ははずんでいました。

虫歯予防デー 歯と口の健康習慣



4月に町田市保健予防課によるブラッシング指導を行ったときに、【ぶくぶくうがい】をするのが難しい方が多いと教えてもらいました。今からだって遅くないかも。練習をしてみよう！と食後にお口をふくらませる、つばませる「お口の体操」を看護師と一緒に行いました

(宮城 真理亜)

児童支援部

ボワ・コンサル

ついこの間、新学期を迎えたと思っていたら、あっという間に7月となりました。6月は台風や梅雨の影響でじめじめとした天気が続きましたが、晴れた日には公園へ出かけ、ブランコや滑り台、バネ遊具などで元気いっぱい体を動かして遊びました。雨の日には、室内ブランコやハンモック、エアポリンを使って体を動かしたり、好きなおもちゃでじっくり遊んだり、それぞれが思い思いの時間を楽しんでいます。

いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。今年も暑い夏になりそうですが、水分補給や休息をこまめに取りながら、子どもたちと一緒に夏ならではの遊びや活動を思い切り楽しんでいきたいと思います。

(渡邊千春)

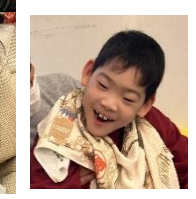
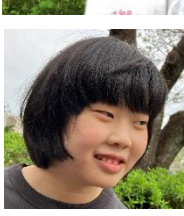
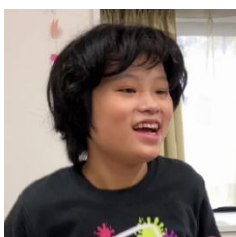


ボワ・エール

今年の梅雨はしっかりと雨が降り、台風も例年よりも多く接近がありました。そんな梅雨も明けて、いよいよ夏本番の天気となってまいりました。児童支援部は、7月下旬からの各学校の夏休みに合わせて長期休み対応期間に入ります。長期休み中は朝から夕方まで子ども達が元気いっぱいに活動をします。今年の夏も暑くなりそうですので、熱中症対策をしっかりとしながら、夏休みの楽しい思い出をたくさん作っていきましょう！

今年も「みんなの笑顔」を集めました。まだまだ載せたい写真はたくさんありますが、抜粋して掲載します。

(上田哲明)



ひなた わんこそばレクリエーション 2026

冷たい物が食べたい！夏に向けて英気を養おうということで、ひなた初のわんこそば大会を開催しました。

100人前の勢いでそばを茹で、それぞれのお椀に「じゃんじゃん！」
「どんどん♪」と注ぎ続ける職員…システムがわかると食べるペースも上がり、気付けば10杯以上の記録を出すご利用者も！天ぷらや薬味で味変しながら、雰囲気を楽しむこともできました。
デザートにはフルーツ盛り合わせやアイスもあり、お腹いっぱいになった夕食のひとときでした。（内藤 大地）



ミニヨン ホットプレートパーティ

お好み焼き & クレープ作り 今回はご利用者全員でどんな具材を入れるか話し合い、決めた材料を買い出しに行くところからスタートしました。買い物を終えて、いよいよ夕食の時間。自分たちでお好み焼きをひっくり返したり、オリジナルクレープをほおばったりと、楽しい時間を過ごしました。現在の建物での最後のレクリエーションでしたが、少しでも思い出になってくれれば幸いです。（石野 幸枝）

2枚目です！



マヨネーズ♡

何個焼く？



ボワ・すみれ福祉社会後援会

募集中!

会員を募集しております

研修会の企画致しました

『親亡き後』障がい者家族には永遠のテーマです。このテーマを皆で少しずつでも考えていきたいとの思いから、昨年度に続き今年度も研修会を企画しております。法人利用者家族へ研修会テーマ希望のアンケートを行い、決定次第皆様へご案内いたします。
多くの皆様のご参加をお願い致します。



今年も「花の家まつり」に出店します。

昨年に続き今年度も「花の家まつり」に出店致します。去年はたくさんの皆様にご来場いただき、完売となり買い損ねたお客様の為にも商品を沢山用意してお待ちしております。

皆様のお越しをお待ちしております。

(後援会事務局)



発行 社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会 理事長 田部井 眞

東京都町田市下小山田町 3267-2
TEL : 042-797-6044(代) / FAX : 042-797-4824
E-mail : hananoie@poem.ocn.ne.jp
<https://bowasumire.jp/>

